

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800170		
法人名	有限会社 高村		
事業所名	輝ららのさんぼ道 グループホーム		
所在地	島根県益田市遠田町2291番地		
自己評価作成日	平成30年5月1日	評価結果市町村受理日	平成30年7月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成30年6月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の個別支援(利用者の夢、やりたいことを叶える) 出汁や食材にこだわり、季節に合った、また希望食を取り入れた食事 外出(旅行など) 家庭的な環境(全面畳になっている)
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に開かれた事業所を目標に開設前から地域に出かけ情報発信をしてきた。民生委員の研修や地域からの介護についての相談や依頼などに積極的に出向いている。第1回秋祭りには400人以上の来訪者があった。建物は全面畳敷きで素足に暖かく心地良い感触と転倒でのリスク軽減に効果がある。リクライニングや高さを調節できるイスや洗面台等利用者に合わせて使い易い家具で落ち着いた共用空間となっている。職員の育成に力を注ぎ、職員一人ひとりが基本理念を理解し、自分の判断で適切な介護ができるようになることを目指し目標に向かって取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼、月一回の全体会議で「理念」「行動指針」「スローガン」を全員で唱和し共有している	朝礼や会議で理念や「行動指針」「スローガン」を確認し合いながら、職員一人ひとりが考え責任を持って実践できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の茶話会の開催を行う 地域の文化祭、運動会などに参加 年1回の祭りの開催	「地域で共に暮らす」を目指し、地域に出向き講演会や研修会を開催したり、地域の文化祭や事業所の祭りなどを通し積極的に交流を図っている。定期的にフラダンスなどのボランティアの来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高村グループで介護技術のプロジェクトチームを立ち上げ、地域や介護従事者を対象に年に3回、介護についての研修を行っている。また茶話会などで認知症についての相談コーナーを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方より、文化祭のお誘いを受け参加した。また、民生委員の方の施設見学をお受けした。	日頃の様子をスライドで伝えたり、事業所の取り組みや状況を報告し具体的な改善や課題を話し合いサービスの向上に繋げている。	欠席者や出席していない家族にも会議の内容を伝える工夫を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で日頃の様子や研修の案内等をおこなっている	日頃より情報交換を行い協力関係を築き取り組んでいる。市からの要請を受けて家族と相談し介護相談員の受け入れをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を立ち上げ、3ヶ月に1回、委員会の開催をしている。また、虐待のアンケートの実施、勉強会をおこなっている	「身体拘束行動指針」を作成しマニュアルの活用や職員にアンケートを実施し身体拘束をしないケアの実践に努めている。利用者の気持ちを理解し行動を抑制しないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員に身体拘束、虐待に関するアンケートを行い、委員会で討議を行ったり、研修会やマニュアルで確認を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを作成し研修会をおこなったり、いつでも閲覧できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明や契約書の説明を行い、署名、捺印をいただいているが改定の際にはしていなかった。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情BOXを設置し、問題点や苦情を受け付けたり、年2回の家族会や口頭での要望や意見、苦情は苦情受付用紙に記入し、改善に向けて取り組んでいる	年2回の家族会や面会時に日頃の様子を伝え、意見や要望を聞き運営に反映させている。代表や職員は利用者や家族とゆっくり関わり意向を尊重してサービス向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員と面談を行い、意見や困っていることを聴いたり、毎月の全体会議や半年に1回職員全員にアンケートを実施して、意見をきいている。	毎月の全体会議や職員面談で意見や提案を聞く機会を設けている。職員の資質の向上を目指し、職員一人ひとりが目標を立てて実践できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度で、職員が現在どのレベルだという事を面談し、個人と上司が同じ評価であるかの確認を行う。またチャレンジシートで自分の役割ややりがいとなることを目標設定し評価をおこなっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内、社外研修等職員のレベルにあった研修に参加してもらったり、職員が受けたいと思う研修に参加するようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回の益田圏域のGHの交流会に参加したり、当グループの勉強会、ミートアップケア輝で自施設を越えた研修会、交流会を企画している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の言葉に耳を傾け、フェイスシート、アセスメントシートに記入し、職員全員が把握し安心できる声掛けや希望を周知している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望を事前に聞いている。またご利用者の対応についてもご家族様と連絡を密にとり報告、連絡している。また、毎月のお便りでご利用者の状況を報告している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご利用者の状況を確認し、計画作成者と相談しながら、その方にあったサービスやプランに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	さんぽ道の方針は「大家族」ご利用者を「ファミリーさん」と呼び家族として接している。出来るだけ家に居る環境で過ごして頂けるように対応している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と密に連絡を取り合い、ご利用者の状況の説明や要望等を伝え協力して頂いたり、家族会や旅行、祭りにも参加していただく様をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪者への対応、行きたい場所への対応はまだできていない状況であるが、今後は支援していきたい	隣接している事業所に通所している馴染みの人と顔を合わせたり、友達に会いたいとの願いを聞いて実現するなど支援に努めている。さらに今後希望を聞いて取り組みたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	殆ど毎日行事がある為、声掛けをしている。ただし、無理強いをせず行事などに参加しない方は、個別で対応等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在1名の方が退所(入院の為)されたが、お見舞いや職員が散髪に行ったり、ご家族に祭りなどのお声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に1回「ファミリーさんの日」と称し、その方の「したいこと」「食べたい物」等をお聞きし対応しているが、今後はもっと大きな夢に向けての対応をしていきたい。	利用者の言葉や気持ちに寄り添い、「得意なこと」「したいこと」を聞き出し、ケース記録に記入し情報を共有して本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート、アセスメントシートを作成し、プランに入れたり、全員が把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や日誌や連絡帳を活用しその方の状況を記録している。日誌は毎日全員で情報共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、計画作成者、担当者、ご利用者、ご家族と担当者会議を行い、ご利用者やご家族の要望等を聴いたり、ご利用者の状況を伝えプランに盛り込んでいる	利用者や家族も参加し、関係者と担当者会議を行い、散歩、外出、リハビリなど現状に即した介護計画を作成している。日頃から要望や状況を職員間で話し合い見直しやプランに追加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や日誌や連絡帳を活用しその方の状況を記録している。日誌は毎日全員にLINEで送信し把握している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設には訪問美容をやっている職員が居り、カットやマッサージをおこなったり、訪問看護と連携しており、利用者の状況に応じて看護師が対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者と一緒に買い物に行ったり、文化祭や運動会など地域に出向くようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、協力医の往診がある。また、今までの主治医の方も協力していただき、往診に来ていただいている。	協力医や主治医の訪問診療があり、連携して適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同事業所内にある訪問看護と連携を取り、ご利用者の状況を伝えたり、配薬や処置、バイタルの確認をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入退院時にはその方の情報をお互いに報告しあい、情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	100歳のご高齢の方がおられる為、早急にごかぞくの意向や医師と相談し終末期に向けて話し合いをしていきたい。また、職員に向けても研修等や話し合いを行い終末期に向けて取り組んでいきたい。	看取りの指針を作成し利用者、家族、関係者と話し合い取り組みを考えている。看取りケアの勉強会も予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習はほとんどの職員が受けているが、今まであまり実用することがないが、研修できる職員が在籍している為、今後に向けて年1回研修を行い身に付けていきたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、消防避難訓練を実施しているが、この近辺は民家が遠く夜間は特に人数が少ない為、地域との協力体制が必須である。今後地域との体制を築いていけるように働きかけていきたい。	夜間想定も含めて毎月消防避難訓練を実施し全職員が対応を身に付けるよう努めている。自然災害、防犯対策など地域との協力体制については今後取り組んでいこうと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「輝ららの credo」をもとにご利用者の声掛けを実践しているが、相応しい声掛けが出来ていないときには、事例を出して都度改善するように対応している	利用者の尊厳と権利を守るため委員会や研修会に参加し理解に努め、人格を尊重した対応や言葉かけなど統一した支援ができるように取り組んでいる。排泄中はタオルを掛けるなど羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「輝ららの credo」をもとにご利用者の自己決定を仰いでいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の要望を聞き入れて出来るだけ対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の要望を聞き入れて出来るだけ対応している。時にはお化粧品したり髪の毛をブローしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな物を把握したり、希望食、バイキングなどをして食事を楽しんで頂いたり、ご利用者と一緒の物を職員全員が同じ時間に一緒に食べている。また一人ひとりお盆にしている事で下膳をして頂いている。調理にも参加して頂いている。	地域の人からの差し入れや収穫した旬の食材も用いて希望食などを聞き食事を楽しめるように支援している。盛り付けや下膳などできる事を一緒に行い、食材やメニューなどを話題にして職員も一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量の摂取量を表にし全員で把握し、少ない場合など、対応するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは声掛けや見守り対応で全員がして頂けるようにしている。また研修等にも参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、利用者の排泄状態を把握している。自立に向けて、1名はリハパンから布パンツになった。失敗もない。	一人ひとりの排泄の状況を把握し見守りや声掛けを行いトイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。本人の意欲を理解して支援しADLや排泄の改善に繋がった人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物の提供や運動を進めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の行事や状況で入浴時間を予定しているが、お一人お一人の希望やタイミングを配慮して声掛けを対応している。	希望に沿って柔軟に対応している。「温泉の日」を作り入浴剤を使い楽しんでもらっている。重度の利用者もゆっくりと湯に浸かれるよう介助の仕方の学習をして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や状況に応じて休息したり、安心して気持ちよく眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用等については、フェイスシートを見る様に指導している。病状の変化や薬の変更や追加等は日誌や連絡帳に記入し全員が把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しい行事を取り入れたり、お一人お一人の生活歴を活かしながら調理、洗濯物たたみ、洗濯物干し、テーブル拭き、畑仕事など役割を持って頂き、日々やって頂いている。また、地域のイベントやお出かけで気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物に出掛けたり、「天気がいいから出掛けたい」「散歩に行きたい」と急な外出の対応をしたり、外出なども行事も多く取り入れている。旅行も計画当中である。	玄関を出ると国道で交通量が多いので細心の注意をしている。敷地内での畑作りや散歩、外気浴や、希望があれば買い物、ドライブなど支援している。家族の協力を得て買い物に行く人もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の規制はないが、皆様お金の所持はされていません。買い物際には、お菓子などの購入を希望されますが、施設で立替しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話を希望されることがありしています。また、ご家族やご友人に年賀状を書いて出していただきました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明が少し暗い感じがする。ワンフロアの為、1人になれる環境が居室しかないが、今のところトラブルはない。	全面和紙畳で心地良い感触があり、転倒によるリスク軽減にもなっている。イスは利用者に合わせて高さやリクライニング機能が備わっている。生花や季節に合わせた飾りつけをして居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ワンフロアの為、1人になれる環境が居室しかないが、今のところトラブルはない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が狭いのもあり、なじみの物が少ないと感じる。今後はどんどん馴染みの物を増やしていきたい。使い慣れた、布団、お茶碗や箸、湯飲みなどは持って来て頂き使用している。	テレビやイス、衣装ケース、裁縫道具などそれぞれ利用者が必要とする物を持参し、自由に居室での時間を過ごせる環境づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	この施設は、あまり「表示」がないので慣れるまでは、一緒に行動することで理解して頂く。ワンフロアなので理解はできやすく行動しやすいと思う。		